
H27 年度女性医師・研究者支援センター調査 調査報告

調査の概要

1. 調査要綱

1.1. 調査の目的

職員の就労状況、育児・介護の状況、仕事への満足度等を把握し対策立案に活かすこと、ならびに平成 28 年 4 月から施行された女性活躍推進法に関し大学独自の基礎資料を作成することを目的とする。

1.2. 調査の対象

調査の対象は、帝京大学板橋キャンパス、八王子キャンパス、宇都宮キャンパス、福岡キャンパス、霞ヶ関キャンパスに所属する教員および医学部附属病院、医学部附属溝口病院、ちば総合医療センターの附属 3 病院に所属する職員計 3766 名である。各所属機関の人数内訳については表 1 に記載。

1.3. 調査期間と方法

平成 27 年 2 月から平成 27 年 3 月までの 1 か月間とした。対象者に郵送法にて自記式質問票調査を行った。質問票は各所属機関に郵送された。

1.4. 回収率

重複、転籍を除く 3756 名に送付され、うち 1186 名から返送された（回収率 32%）。

1.5. 調査に関する秘密の保持

本調査は、男女共同参画推進事業の一環として本学板橋キャンパス倫理委員会の承認を受けて実施された。プライバシーの保護を考慮し、無記名での回答とした。解析は個人単位では行わず、データは施錠できるところに保管し、解析終了後には破棄することとし、また回答の有無や回答内容によって帝京大学との雇用に何ら影響のないことを事前に回答者に告知した上で、守秘義務を遵守し調査を行った。

1.6. 利益相反について

本調査について申告すべき利益相反はなかった。

表 1 質問票送付先 人数内訳

所属機関	人数
板橋キャンパス	568
八王子キャンパス	385
宇都宮キャンパス	103
福岡キャンパス	76
霞ヶ関キャンパス	5
医学部附属病院	1563
医学部附属溝口病院	454
ちば総合医療センター	612
	3766

2. 結果の集計について

統計学的検定は有意水準 5%とし、両側検定を行った。

カテゴリーで回答する項目についてはカテゴリーに属する人数 (%)を記載し、キャンパス教員と附属 3 病院の職員の群間差の比較にはカイニ乗検定を用いた。

連続値で回答する項目、尺度を回答する項目については平均値±標準偏差を記載し、キャンパス教員と附属 3 病院の職員の群間差の比較の際には t 検定を用いた。

結果の概要において、「高い」「多い」「長い」など集計結果の群間差に評価に関するコメントは統計学的な検定に基づき記述した。

結果の概要

1. 回答者の所属について

回答が得られた 1186 名のうち、帝京大学の各キャンパス（板橋・八王子・宇都宮・福岡・霞ヶ関）に所属する教員は 574 名（49%）、附属 3 病院（医学部附属溝口病院・医学部附属溝口病院・ちば総合医療センター）に所属する者は 598 名（51%）であった（未回答者 14 名）（図 1）。

キャンパス教員の回答者のうち、医学部に所属している者が最も多かった（男性 112 名、女性 38 名）。次いで医療技術学部（男性 59 名、女性 39 名）、薬学部（男性 25 名、女性 13 名）と板橋キャンパス所属学部（医学部、薬学部、医療技術学部 視能矯正学科／看護学科／診療放射線学科／臨床検査学科／スポーツ医療学科救急救命士コース）の教員の回答が多かった。また、法学部の回答者に女性はいなかった。（図 2）

附属 3 病院に所属する回答者のうち、看護師が最も多く（428 名、73%）、次いで技師の回答が 96 名（16%）であった。医師の回答は 21 名（3%）であった（図 3）。

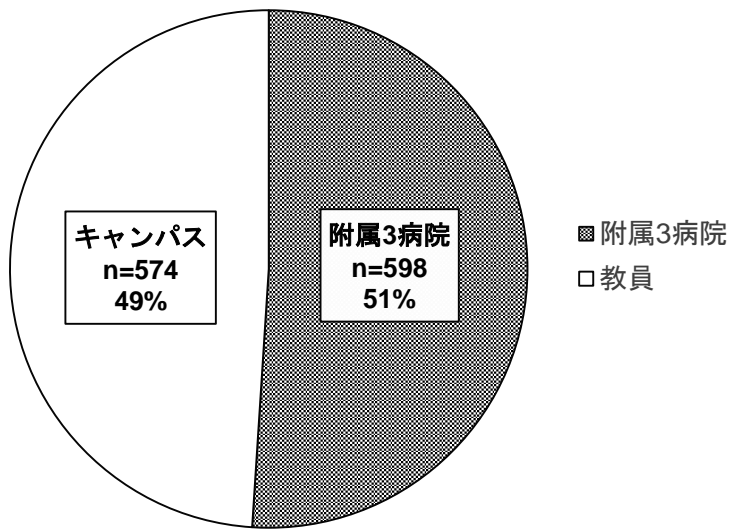


図 1 回答者のキャンパス所属者と附属 3 病院所属者の内訳

回答者の内訳を帝京大学の各キャンパス（板橋・八王子・宇都宮・福岡・霞ヶ関）に所属する者と附属 3 病院（医学部附属溝口病院・医学部附属溝口病院・ちば総合医療センター）に所属する者に分類して示した。ただし、14 名未回答。

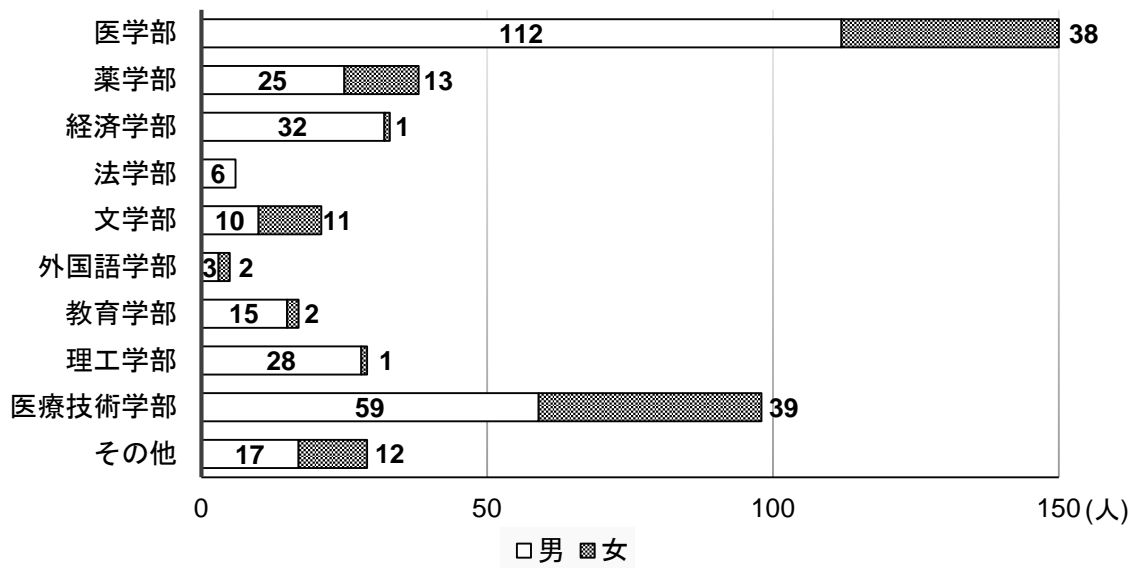


図 2 キャンパス教員の所属学部内訳（男女別）

回答者のうち帝京大学の各キャンパス（板橋・八王子・宇都宮・福岡・霞ヶ関）に所属する者の所属学部を男女別に示した。ただし、148 名未回答。

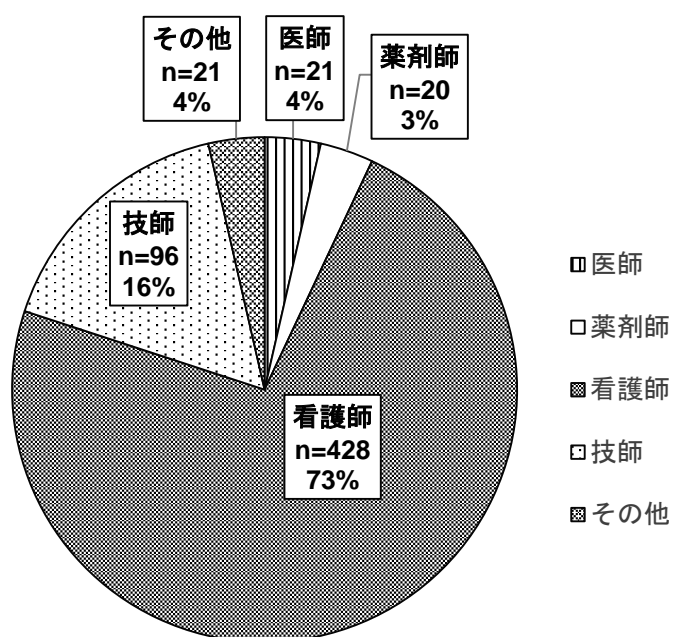


図 3 附属 3 病院職員の職種内訳

回答者のうち、附属 3 病院（医学部附属溝口病院・医学部附属溝口病院・ちば総合医療センター）に所属する職員の職種を示した。ただし、12 名未回答。

2. 回答者の基本特性

詳細な結果については表 2 に記載。

女性の割合はキャンパス教員が 234 人 (41.7%)、附属 3 病院職員が 514 人 (87.3%) と、年齢はキャンパス教員が平均 44.9±13.4 歳、附属 3 病院職員が 32.8±9.6 歳で有意に教員の方が高かった。婚姻状況については附属 3 病院職員の未婚率が高く、子供がいる者も有意に少なかった。介護を行っている者の割合はキャンパス教員の方が有意に多かった。また、一日の家事を行う時間は、平日、休日ともに附属 3 病院職員の方が長かったが、性別役割分業意識については所属機関による差はみられなかった。

表 2 回答者の基本特性と性別役割分業意識について

	教員 (n=574)		附属 3 病院 (n=598)	
	n	%	n	%
女性†	234	(41.7)	514	(87.3)
年齢(歳) †	44.9 ± 13.4		32.8 ± 9.6	
未婚†	190	(33.9)	376	(63.5)
子供有†	298	(55.0)	190	(34.1)
介護有*	71	(6.2)	37	(6.3)
一日の家事労働時間 (時間)				
平日†	1.76 ± 1.76		2.45 ± 2.17	
週末†	3.63 ± 3.36		4.60 ± 4.49	
性別役割分業意識				
1) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。	68	(12.1)	55	(9.3)
2) 女性の人生において、妻であり母であることも大事だが、仕事をするのも同じくらい重要である。	333	(59.4)	343	(58.1)
3) 母親であれば、育児に専念することが第一である。	104	(18.6)	115	(19.5)

連続量は平均値±標準偏差、カテゴリー値については人数 (%)を記載した。性別役割分業意識については 1)から 3)の問いに対して、「ややそう思う」、「とてもそう思う」と回答した人数を記載した。ただし、性別について 36 名、年齢は 43 名、婚姻状況は 19 名、子供の有無は 73 名、介護状況は 25 名、平日の家事時間は 31 名、週末の家事時間は 34 名、性別役割分業意識の 1)は 20 名、2)は 21 名、3)は 21 名それぞれ未回答。所属機関による有意な差が見られた場合、項目横に記号で示した (*:P<0.001、†:P<0.0001)。

3. 労働状況について

詳細な結果については表 3 に記載。

一日の労働時間はキャンパス教員が 9.5 ± 2.0 時間、附属 3 病院職員が 9.0 ± 1.5 時間とキャンパス教員の方が長かった一方、睡眠時間は所属機関間で有意な差はみられなかった。

質問項目を集計し、Job Content Questionnaire (JCQ) を用いてストレス尺度を評価した結果、附属 3 病院職員の方が仕事の要求度は高く、裁量度は低かった。仕事の要求度が高い一方で仕事の裁量度が低い高ストレーン群の割合も附属 3 病院職員の方が多かった。仕事の支援度については所属機関間で差は見られなかった。

同様に質問項目を集計し the Copenhagen Burnout Inventory より算出した精神的疲労感についても感情疲労 (Personal Burnout)、仕事関連精神疲労 (Work-related Burnout)、对患者 (学生) 精神疲労 (Client-related Burnout) いずれの項目も附属 3 病院職員の方が高かった。質問紙による DSM-V に基づく原発性不眠症の人数も附属 3 病院職員の方が多かった。

表 3 労働時間と労働に伴うストレスについて

	教員 (n=574)		附属 3 病院 (n=598)	
一日の労働時間 (時間) †	9.5	± 2.0	9.0	± 1.5
一日の睡眠時間 (時間)	5.9	± 1.1	5.8	± 1.4
職場のストレス尺度によるストレス強度†				
高ストレーン群	88	(15.3)	196	(32.8)
職場のストレス尺度 (点)				
仕事の要求度†	33.8	± 5.7	35.7	± 5.0
仕事の裁量度†	71.1	± 9.7	64.0	± 9.0
仕事の支援度	23.3	± 4.1	23.0	± 4.0
精神的疲労感 (点)				
感情疲労†	15.0	± 5.2	17.8	± 5.4
仕事関連精神疲労†	15.7	± 5.1	18.8	± 5.6
对患者 (学生) 精神疲労†	13.5	± 4.2	14.7	± 4.8
不眠症*	98	(17.1)	134	(22.4)

連続量は平均値±標準偏差、カテゴリ一値については人数 (%) を記載した。ストレス尺度については Job Content Questionnaire を、精神的疲労感については the Copenhagen Burnout Inventory を用いて評価した (仕事の要求度:48 点満点、仕事の裁量度:96 点満点、仕事の支援度: 32 点満点、精神的疲労感:各 100 点満点)。不眠症については DSM-V に基づく原発性不眠症の人数を記載した。ただし、労働時間について 24 名、睡眠時間は 28 名、ストレス尺度のうち仕事の要求度は 26 名、仕事の裁量度は 41 名、仕事の支援度は 50 名、精神的疲労感のうち感情疲労は 27 名、仕事関連精神疲労は 24 名、对患者 (学生) 精神疲労は 28 名それぞれ未回答。所属機関による有意な差が見られた場合、項目横に記号で示した (*:P<0.05、†:P<0.0001)。